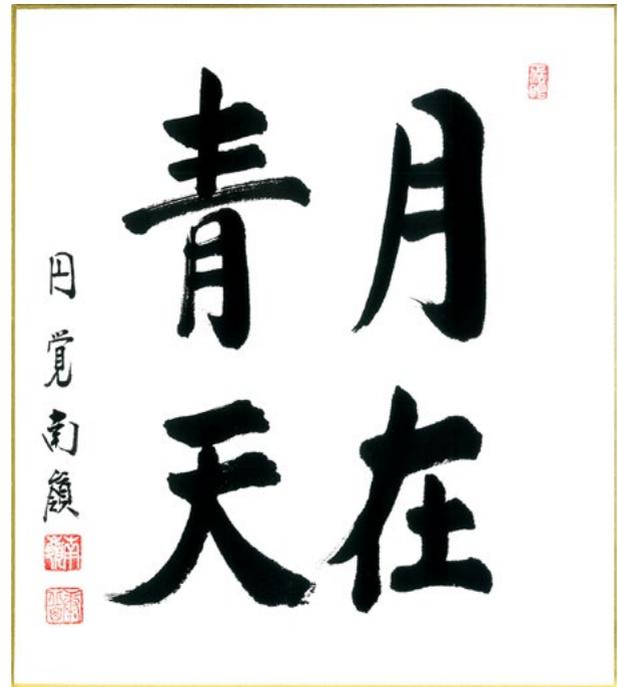


円覚

令和3年 秋ひがん号

335号





円覚335号目次

管長猊下 色紙	表紙II
天に星、地に花、人に愛／横田 南嶺	1
信心ことはじめ ㊿	10
みとりのこころ(四)／鈴木 秀子	12
鈴木大拙の言葉と生涯(四)／蓮沼 直應	20
ワクチン接種／桜井 竜生	24

表紙・裏表紙写真／円覚寺派宗務本所

天に星、地に花、人に愛

管長 横田南嶺



「コロナより怖いのは人間だった」

この言葉は仏教伝道協会が行った第三回「輝け！お寺の掲示板大賞2020」で大賞に選ばれた言葉だそうです。

これは令和二年の三月頃に、新型コロナウイルス感染症が拡大し始め、多くの人が急いでマスクを買い求め、ドラッグストアに殺到したりしたときの、店員のツイッターを元にした掲示板の言葉だそうです。

もちろんのこと、コロナの怖ろしいことは

改めて言うまでもありません。多くの方が尊

い命を失いました。重症になって入院し、苦労された方も大勢いらっしゃいます。その方々の治療を担当された医師や看護師、病院関係者の方々のご苦労も察するに余りあります。職を失った方も多くいらっしゃいます。コロナが大変なことは当然なのでありますが、人間がもたらした苦しみも多くありました。

コロナ感染者への差別などもそのひとつでありましょう。感染した方は、その家族まで

も差別されたり、なかには引越しを余儀なくされたりすることもあったと言います。何とか感染を抑えなければという思いが強すぎてしまつて、「自粛警察」なるものが現れたりもしたのでした。わがままな思いからくる買い占めや高額転売もありました。

自粛が続くことによってイライラしてしまい、差別を増長させたり、他者の批判をしたりすることもありました。或いは思慮不足な行動をしたり、不安なことから疑心暗鬼になつてしまつたり、右往左往することが多かったように感じます。

思うように外出出来ない暮らしが続いて、うつ状態になつた方も多いことでありましょう。

コロナそのものの怖ろしさと共に、人間がもたらした苦しみも大きいものだと感じざる

で、ネアンデルタール人は、脳の大きさや身体の強靱さなどでは、ホモ・サピエンスよりも優れていたそうなのであります。一対一で闘ったならば、ネアンデルタールの方が強かつただろうというのです。

ホモ・サピエンスは、貨幣、帝国、宗教という、ハラリさんの言葉によれば、「実体を伴わない虚構」「共通の神話」を作り出したというのです。

そこから、ホモ・サピエンスは、そのような共通の概念を頭の中で想定し、それをお互いに共有するようになって、お互いに協力し合おうという意識が生まれて、集団で行動したり作業したりできるようになつたのだというのです。

ハラリさんは、「これこそがサピエンスの成功のカギだった。一対一で喧嘩をしたら、

を得なかつたのであります。

ホモ・サピエンスの特徴

花園大学の佐々木閑先生が『宗教の本性』という本を出版されました。佐々木先生はその中で、ユヴァル・ノア・ハラリというイスラエルの歴史学者が書いた『サピエンス全史』という本の内容を引用されていきました。おかげで私もその本について学ぶことができました。私たちが人間のことを「ホモ・サピエンス」というのでありますが、『サピエンス全史』では、なぜホモ・サピエンスがこれほどまでに文明を発展させ、地上を支配することができたのが説明されています。なんでも、大きな脳を持ち二足歩行を行う人類種は、サピエンス以外にも多くいたのだそうです。

ネアンデルタール人などもその一つだそう
ネアンデルタール人はおそらくサピエンスを打ち負かしただろう。だが、何百人という規模の争いになったら、ネアンデルタール人にはまったく勝ち目がなかったはずだ。」というのです。

そのように私たち人類は、他人と同じ世界観や価値観を共通に信じていることができるようになり、お互いに協力し合うことができるようになったのでした。

これこそが、人間の素晴らしさであり、強さなのであります。

何があれば幸せか

人間同士がつながりあって、大きな力を発揮できるようになりました。古代文明においても、あんなに大きなピラミッドを作れたのも、力を合わせたからこそです。そして様々



円覚寺 総門

な文明文化を生み出してきたのでした。

それだけに、この人間社会の中で生きることに大きな価値を見いだし、その中で幸せを感じるようになってきたのだと思います。人はいったい、何があれば幸せと感じるのでしょうか。人間同士のこの社会で認められるというのは大きな幸せでありましょう。

ほかにもどんな時に幸せを感じるのでしょうか。いろんな調査がありますが、たとえば、「家族団欒」の時でありますとか、「職場で嫌なことがあった時に、自分には家族がいるんだと思えた」などというのもございます。それから、「久しぶりに家族全員で食事をしたこと」というように、人間はやはり基本が家族であって、家族を心の支えにしているという声が多くございます。それ以外にも、旅行や旅行の計画をしている時などに幸せを

感じるといふ声もございます。

それから、これがあれば幸せになれるというものは何かというと、「生涯を共にする人・恋人・結婚相手」「友人・仲間」「仕事・職業」などだそうです。そのほかにも「自由になる時間」というのもあって、これは三十代の方など、仕事が最も忙しい年代の方に見られるようです。あとは、「金融資産」や「健康」「運・チャンス」というものが挙げられているのであります。

では、逆に不幸を感じるのは、今挙げたようなものを無くした時でありましょう。確かに、家族があっても団欒がないというのは、考えものです。今のコロナ禍のように、家族がみんなどこかで食事をするということも難しく、余所に出掛けている人が故郷に帰りにくいということもございます。また、大切

な伴侶を失うことは、これ以上ない悲しみであります。自分の仕事や職業を失うことも、この世の中で自分を否定されたように感じてしまうものでしょう。仕事から解放される自由な時間もないと息が詰まるものです。

天に星、地に花

お互いの暮らしには、家族が一番の支えになるのですが、その反面でコロナ禍で地元の家族に会えないとか、どこかに食事に行くことができないなどということは、ストレスになるのだらうと思います。

また、この現実の社会、人間同士の関わり合いの中で、うまく評価されれば幸せを感じて、逆に否定されたりすると落ち込んでしまうのであります。人と人とのつながりを頼りとするだけに、うまくゆかない時の影響も大

きいのであります。それでもお互いは生きてゆかねばならないのであります。

「天に星、地に花、人に愛」という武者小路実篤さんの言葉を思い起こします。武者小路実篤さんというのは、明治一八年（一八八五年）にお生まれになり、昭和五一年（一九七六年）にお亡くなりになっています。九十歳の長生きでいらっしやいました。白樺派と言われている。『友情』という小説に感銘を受けたことを覚えています。

「この道より我を生かす道はなし、この道を行く」「人知るもよし人知らざるもよし 我は咲くなり」

「この世に生きる喜びの一つは、人間の純粹な心にふれることである」「今の人は、幸福と快樂の区別を知らない。快樂を得ることを、幸福だと思っている」「一番深いところからく

る 純粹な喜びを感じつつ 毎日の仕事を悠々とやっていきたい まず自分のすることをして 今日も無事に有益に 一日を過ごせたことを 心ひそかに 喜びたいと思う」などなど深い言葉を残していらっしやいます。

「天に星、地に花、人に愛」もそんな武者小路実篤さんの言葉です。一説には、高山樗牛さんが、「天にありては星、地にありては花、人にありては愛」と言ったのが元になっているとも言われています。「人に愛」が大切なことは言うまでもありません。それが人間にとつての幸せの一番の根本なのです。しかし、いつも愛ばかりに満たされるわけでもないのが現実なのです。そんな時には、「天に星、地に花」もあるという眼を持っていることが大事であります。

詩人の坂村真民先生は詠いました。

知らせよう

せかせかと通り過ぎてゆく人に

知らせよう

一輪の花が

あなたを呼んでいることを

……（『坂村真民全詩集第三卷』より）

時

日の昇るにも

手を合わさず

月の沈むにも

心ひかれず

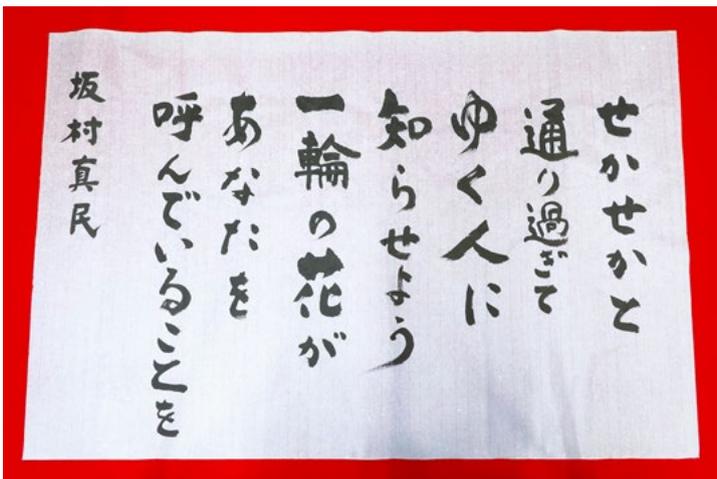
あくせくとして

一世を終えし人の

いかに多きことぞ

道のべに花咲けど見ず

梢に鳥鳴けど聞かず



掲示板の詩 横田南嶺管長揮毫

せかせかとして

過ぎゆく人の

いかに多きことぞ

……（『坂村真民全詩集第四卷』より）

こんな詩の一節もございます。

こおろぎ賛

……

守られて眠っていることを

知ってください

こんなにも美しく

星が光り輝き

こんなにも優しく

虫たちが鳴いているのです

……（『坂村真民全詩集第三卷』より）

天に星、地に花、人に愛。人の愛は大切な

ものです。しかしそれだけではないのです。

天に星があつて私たちを見守ってくれていま

す。地上には花が咲くのであります。

人間の社会の関係だけでは苦しく大変なよ

うに思えても、心を開けば、豊かなものに満

たされて今日も生きていると気がつくことが

できるのであります。

